

とうきょう すくわくプログラム活動報告書
5月26日(月)・6月4日(水) かがくのとも5月号「あまがえる」

テーマ設定の理由

アマガエルを飼育していく中で、気づいたことを友だちと一緒に考えていく

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・虫かご・ミルワーム・葉

探究活動の実践・子どもの姿・振り返り



絵本を読んでもみると鳴き声を真似したり、「アマガエル飼いたい!」と興味を示す子どもたち。



散歩先ではなかなか見つけられなかったのですが、大人が北軽井沢の合宿先の下見へ行った時に見つけたアマガエルを観察することにしました。



虫かごを覗いてみると「かわいい!」「手ちっちゃ!」「つるつるしてそう」「鳴くのかなあ?」と次々に話します。



「触ってみたい!」と実際に手の平に乗せて観察したり、「何食べるんだろう?」と調べてみると、生きている虫を食べることが分かりミルワームをあげてみました。



「カエルって色変わるんだよ」と擬態することを知っていた子が話すと、みんな不思議そうな顔をしながら「じゃあ、お家に茶色い葉っぱ入れたら茶色になるのかな?」と早速茶色い葉っぱを持って来て試してみました。



日々観察しましたが、緑のアマガエルが変色することはありませんでした。合宿当日、みんなが登る離山のふもとの水辺もある場所で「ここにしようよ!」と逃がすことにしました。



「バイバイ!」「ママのところ行けるかな?」「元気でね!」と言葉をかけ、数日間一緒に過ごしたアマガエルとお別れをしました。

保育園の近くにはアマガエルは見かけませんが、北軽井沢のアマガエルをみんなで観察し、「何食べるのかな?」と調べると「生きてる虫だって!」とミルワームをあげてみたり、夕方になると鳴き声がし「ママがいいって言うてるのかな?」と2週間ほど触れ合い、飼育しました。年長の泊り行事の際に元居た北軽井沢の水辺にみんなで離しました。ほんの短い期間でしたが、実際に見たり触れたりすることで関心が広がっていきました。